

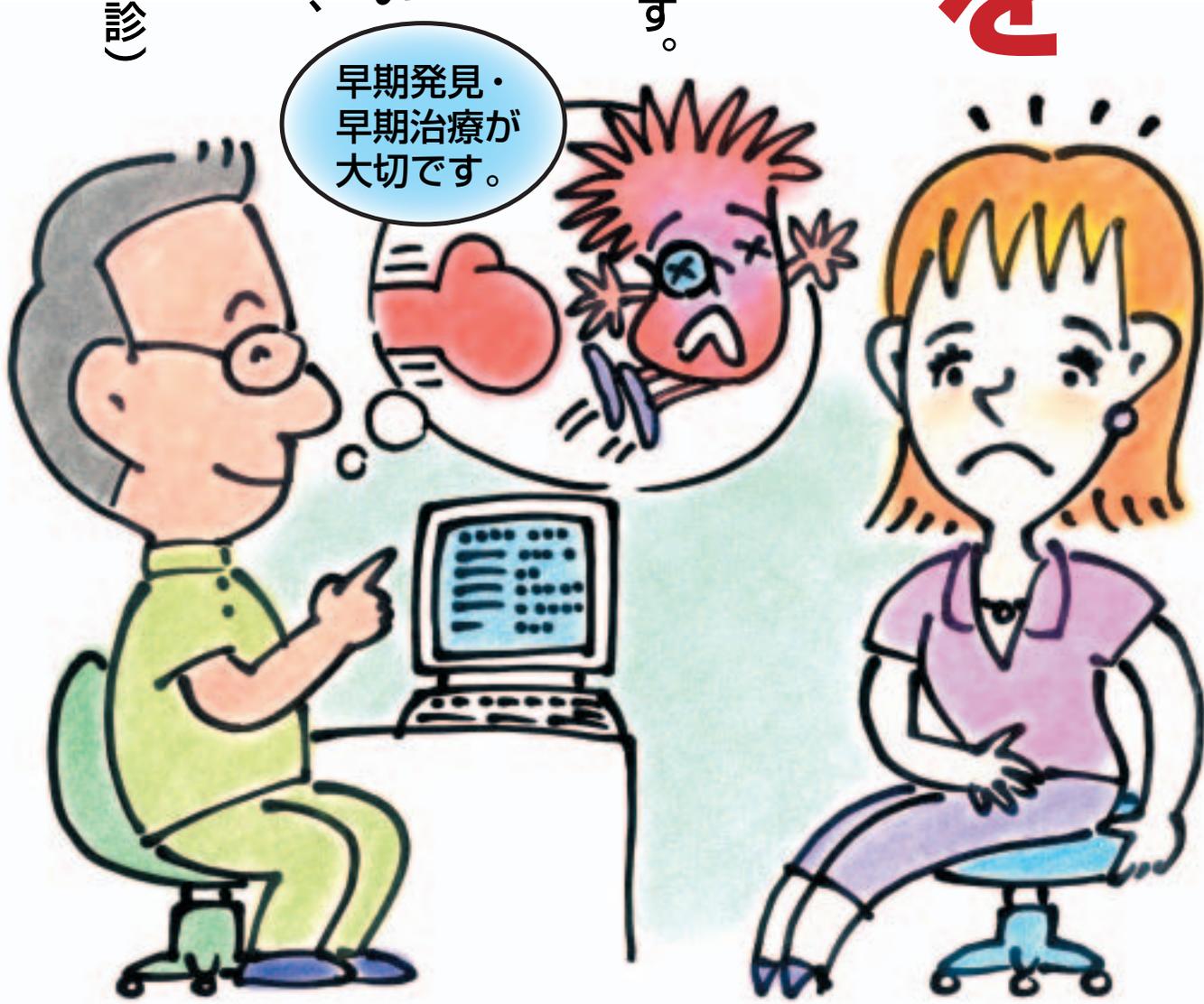
健康ぷらざ

No.131

企画:日本医師会

若い人でも 子宮がん検診を

子宮頸がん(子宮の入り口にできるがん)の発生因子の一つとして性感染症が注目されています。近年の性関係の低年齢化にもなっており、若い世代にも子宮頸がんが増えているのです。自覚症状が初期にはないため手遅れになりやすい子宮頸がんも、検診で早めに発見して治療すれば、ふつうに妊娠や出産をすることができます。若い人でも定期的に子宮がん検診(子宮頸がん検診)を受けることをお勧めします。



指導:前 東京慈恵会医科大学産婦人科 教授 寺島 芳輝

◆待合室等に掲示し、患者さんにおみせください。